

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月26日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

本日の内容

【第一部】

1. 2019年3月期 第2四半期 決算概要
2. 2019年3月期 通期業績予想

【第二部】

3. 後半戦の展望と中期経営計画の進捗

バリュークリエーション2020

1. 2019年3月期 第2四半期 決算概要

2019年3月期 第2四半期 決算ハイライト

第2四半期連結累計期間の実績は売上・利益ともに計画未達。
日本及び中国において景気の先行きは不透明感を拭えず。

売上	連結	連結売上高は、前年同期比105.7%、11億円増の209億円。
	日本	前年同期比99.7%の84億円。 食品・飲料関連等が受注伸長するも、自動車関連等が軟調。
	中国	前年同期比108.7%の104億円。 継続して取組んでいる高付加価値の戦略製品が大きく伸長。
	その他	前年同期比118.5%の21億円。 引き続き、欧州を中心として好調に推移。
利益		営業利益は前年同期比97.8%の13.7億円。 設備投資、研究開発投資の減価償却費等による販管費の増加や工場の先行投資負担増等による原価率アップもあり、減益。 経常利益は前年同期比95.8%の13.4億円。 当期利益は前年同期比109.1%の10.0億円。
ネット資金		ベトナム工場への投資等により、期首から9.0億円減少。



損益計算書サマリー

(単位:百万円)

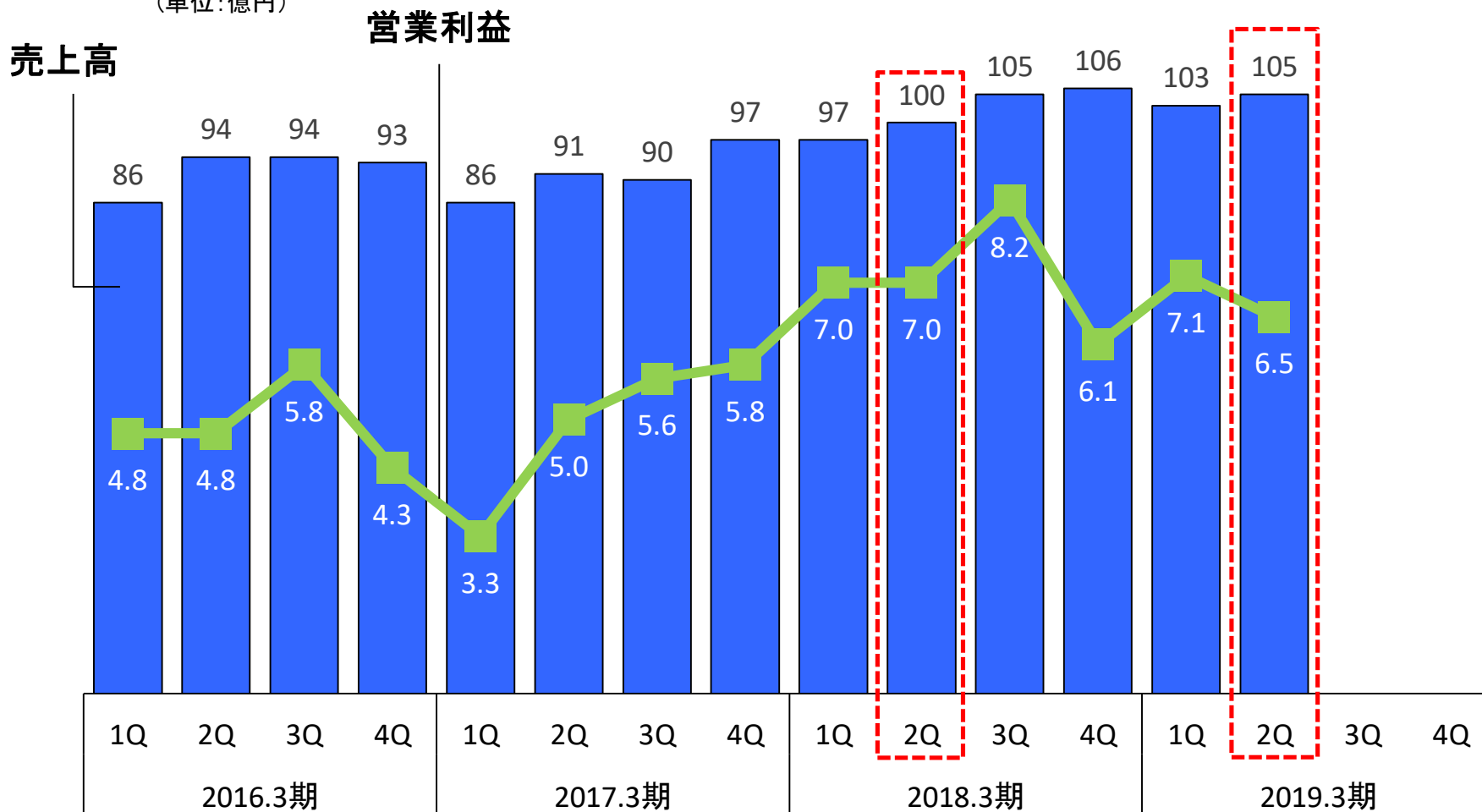
	2018年3月期 第2四半期		2019年3月期 第2四半期		前年同期差	前年同期比
売上高		19,800		20,937	1,136	105.7%
営業利益	7.1%	1,404	6.6%	1,374	▲30	97.8%
経常利益	7.1%	1,398	6.4%	1,340	▲58	95.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4.7%	921	4.8%	1,005	83	109.1%



売上高と営業利益の推移

第2四半期として、売上高は上場来最高を更新するも減益。

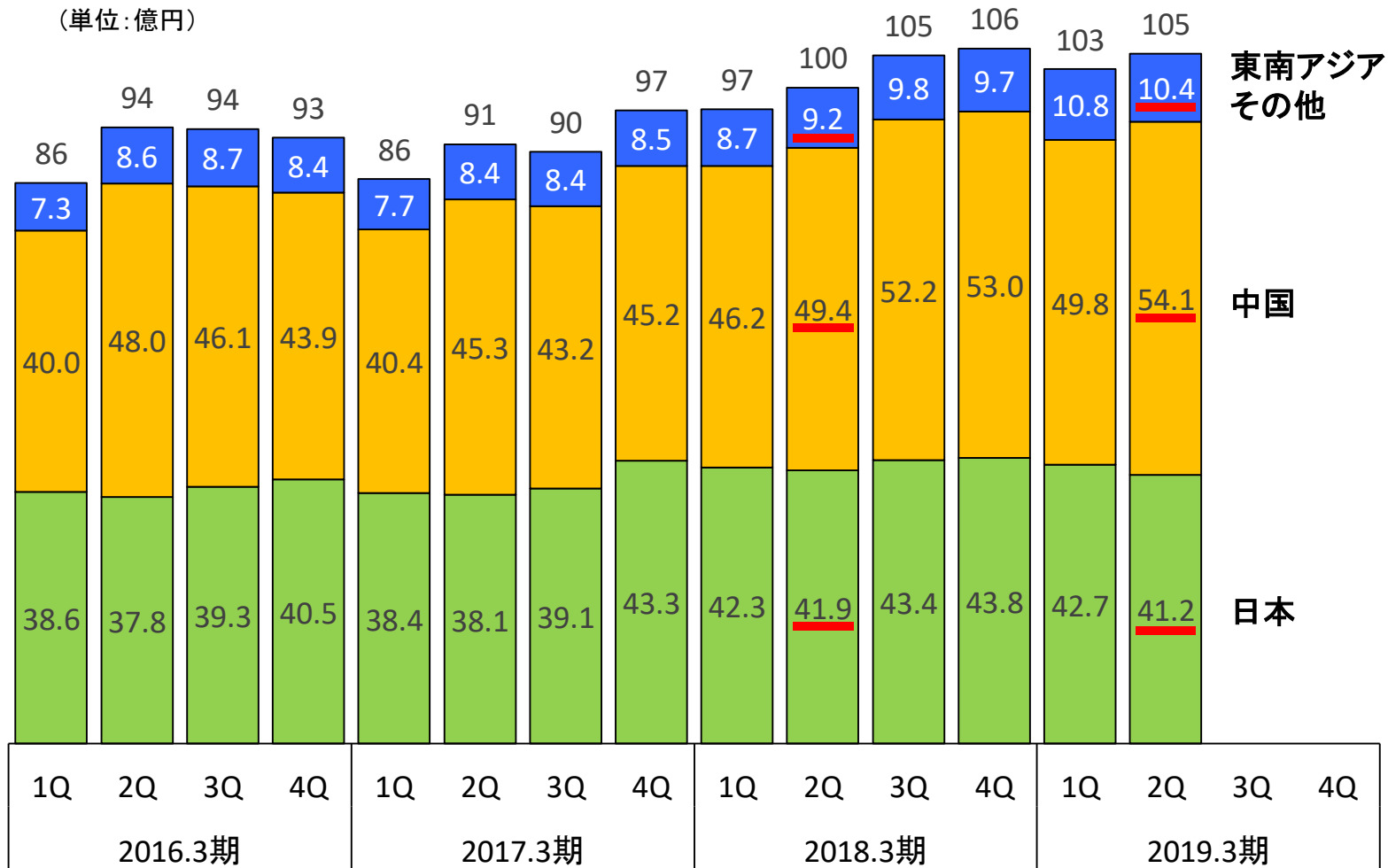
(単位:億円)



地域別売上高

四半期ベースで、海外事業は増収を達成。

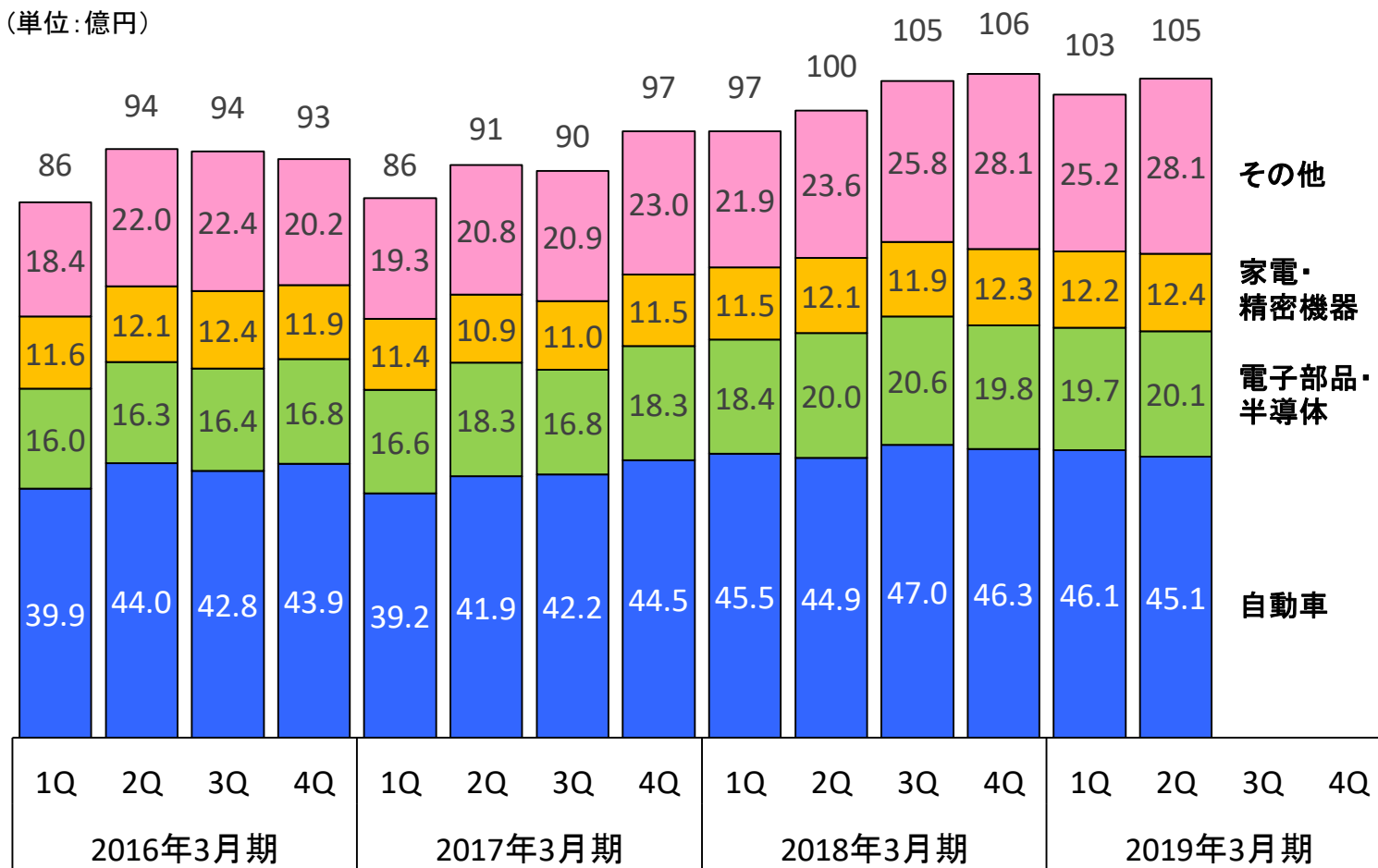
(単位:億円)



業種別売上高

食品・飲料関連の受注が拡大する等、「その他」の伸長が貢献。

(単位:億円)

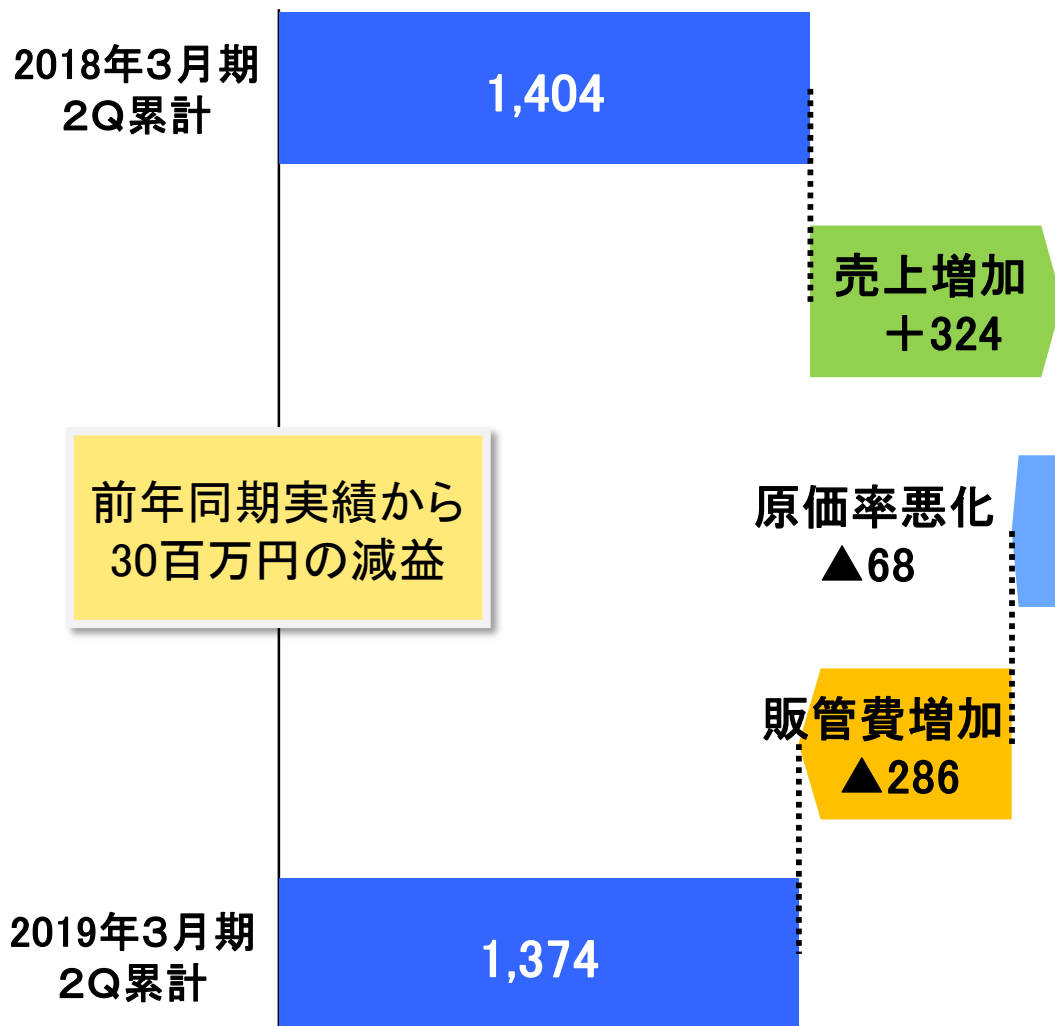


注) 中国における業種区分修正に伴い、2017年3月期のデータを修正



営業利益増減

(単位:百万円)



【売上の主な増減要因】

■グループ全体で注力している食品・飲料関連等を含む「その他」関連の売上が好調を維持

【原価率の主な増減要因】

■ベトナム工場の立ち上げ等のグループ粗利率改善のための先行投資による原価率アップ

【販管費の主な増減要因】

■デジタルエンジニアリング事業の拡大に伴う設備投資
■新分野開拓のための研究開発に掛かる減価償却費の増加



貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2018年3月期末	2019年3月期 第2四半期末	比較増減
総資産	32,560	31,524	▲1,035
総負債	16,385	15,022	▲1,363
うち有利子負債	6,332	5,922	▲410
純資産	16,174	16,502	327
ネット資金	▲2,561	▲3,465	▲904
自己資本比率	49.6%	52.2%	2.6pt

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	比較増減
設備投資額(無形固定資産含む)	1,192	1,352	160
減価償却費(無形固定資産含む)	761	822	61



2. 2019年3月期 通期業績予想



2019年3月期 通期業績予想を修正

(単位:百万円)

	2019年3月期 通期連結業績				
	期初予想 (5/11公表)		修正予想 (11/9公表)		修正予想差 (修正予想比)
売上高	42,000		41,000		▲ 1,000 (97.6%)
営業利益	7.0%	2,920	6.1%	2,500	▲ 420 (85.6%)
経常利益	6.7%	2,800	5.9%	2,400	▲ 400 (85.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.9%	2,070	4.3%	1,750	▲ 320 (84.5%)
自己資本利益率(ROE)	12.0%		10.5%		▲ 1.5pt



2019年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2018年3月期 (実績)		2019年3月期 (予想)		前期差	前期比
売上高	41,025		41,000		▲25	99.9%
営業利益	6.9%	2,843	6.1%	2,500	▲343	87.9%
経常利益	6.7%	2,731	5.9%	2,400	▲331	87.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.4%	1,788	4.3%	1,750	▲38	97.8%
自己資本利益率 (ROE)	11.8%		10.5%		▲1.3pt	

2019年3月期
配当予想(修正)

16円75銭 = 中間 10円25銭 + 期末 6円50銭



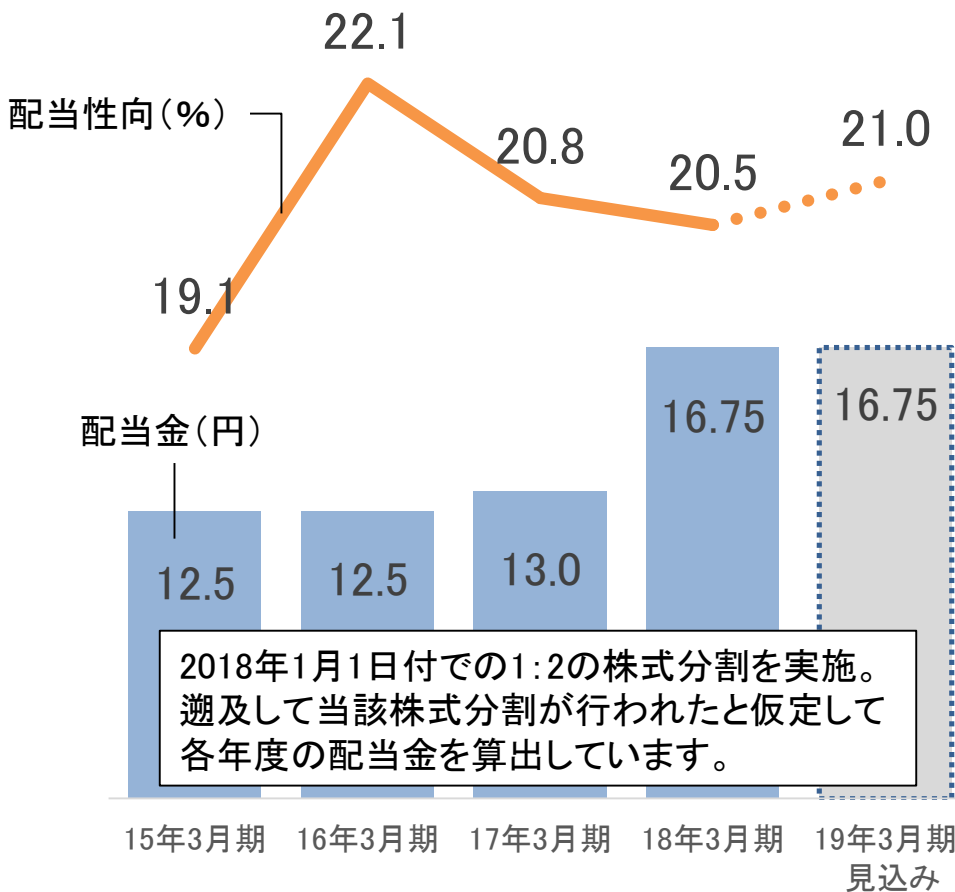
1株当たり配当金と配当性向

【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げることが目標。

継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆様からの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営上の重要課題。

2019年3月期の配当(見込み)
中間 10円25銭＋期末 6円50銭
＝ 16円75銭予定(前年と同額)



バリュークリエーション2020

3. 後半戦の展望と中期経営計画の進捗

後半戦への展望(日本の売上動向)

日本拠点数

生産	販売
4	12
カ所	カ所

※北海道は拠点なし

2019年3月期4～9月
西日本の前年同期比

94%

※名古屋、京都、大阪、
広島、福岡の5拠点

2019年3月期4～9月
東日本の前年同期比

102%

※北上、仙台、宇都宮、
北関東、関東、長野、
金沢の7拠点

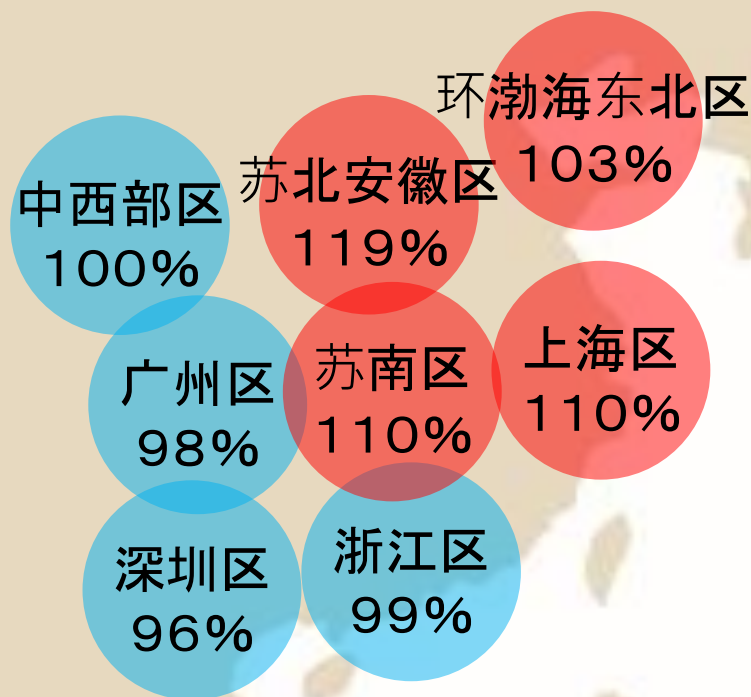


後半戦への展望(中国の売上動向)

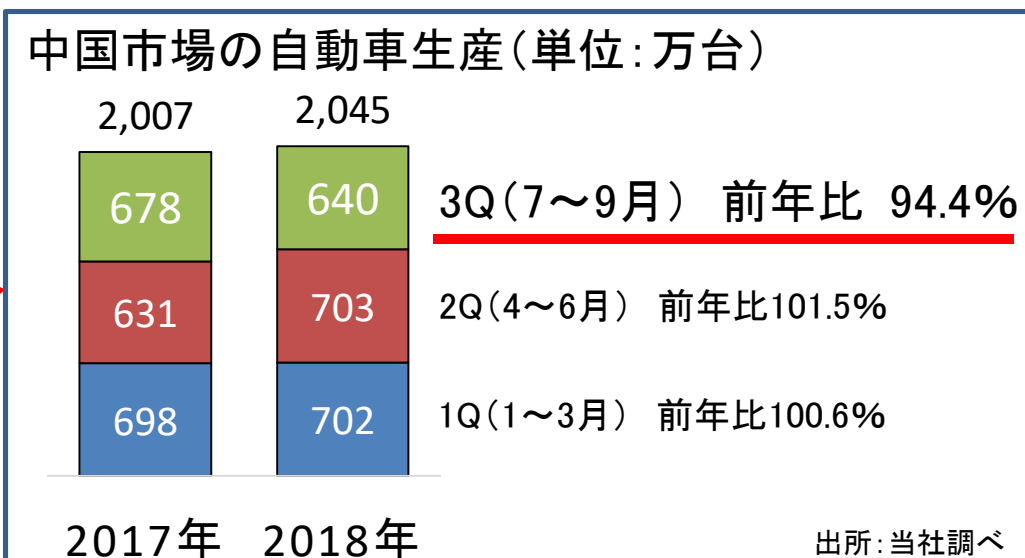
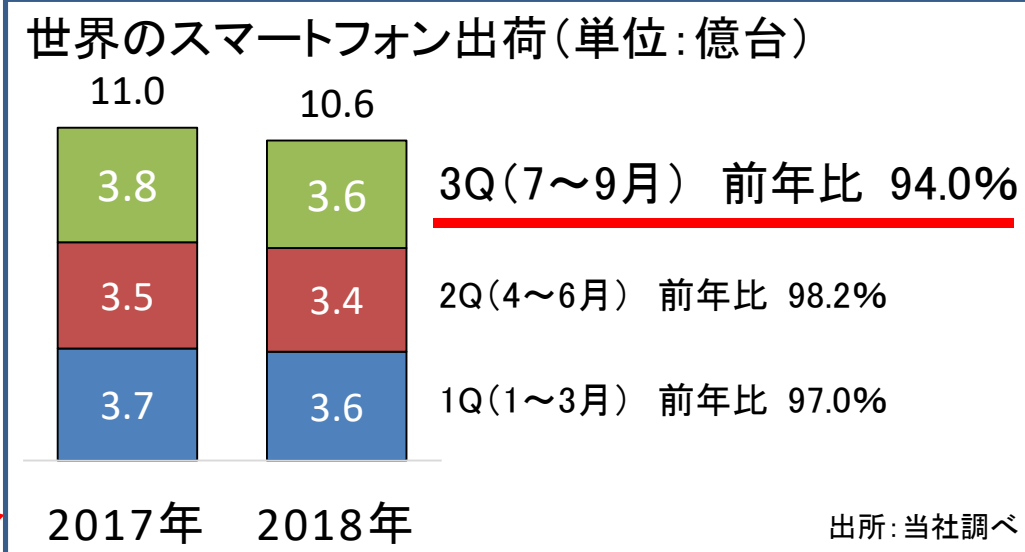
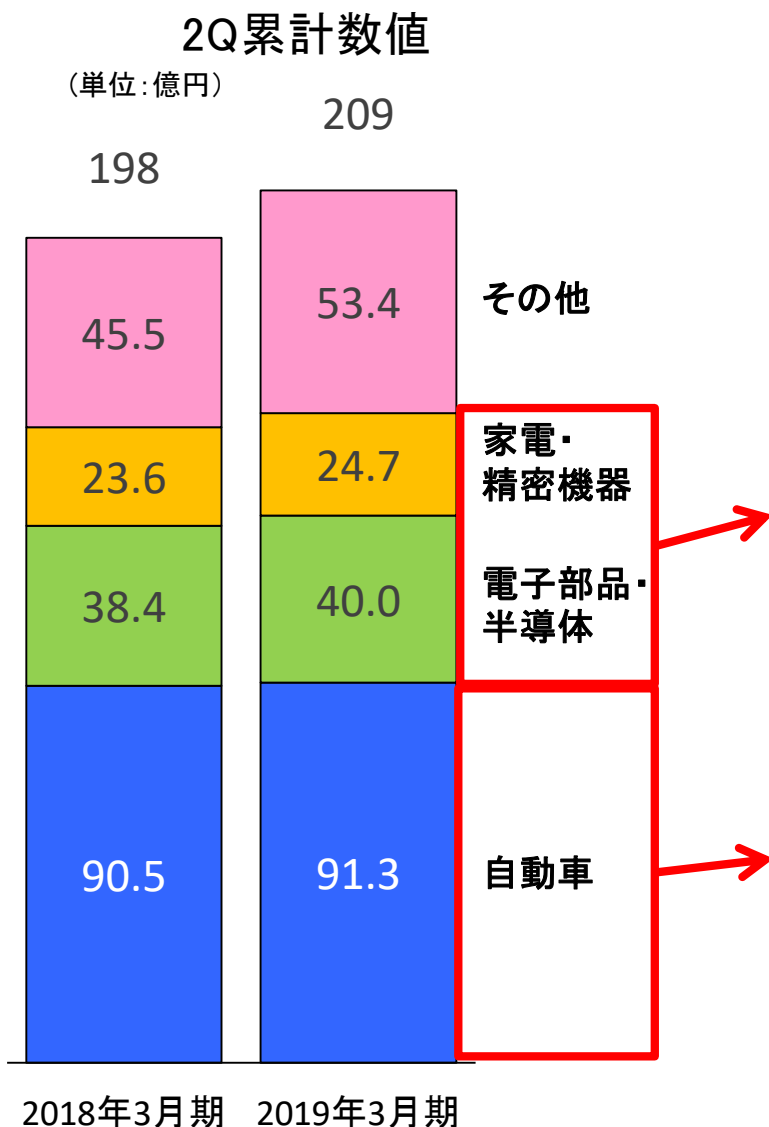
中国拠点数

生産	販売
6	34
カ所	カ所

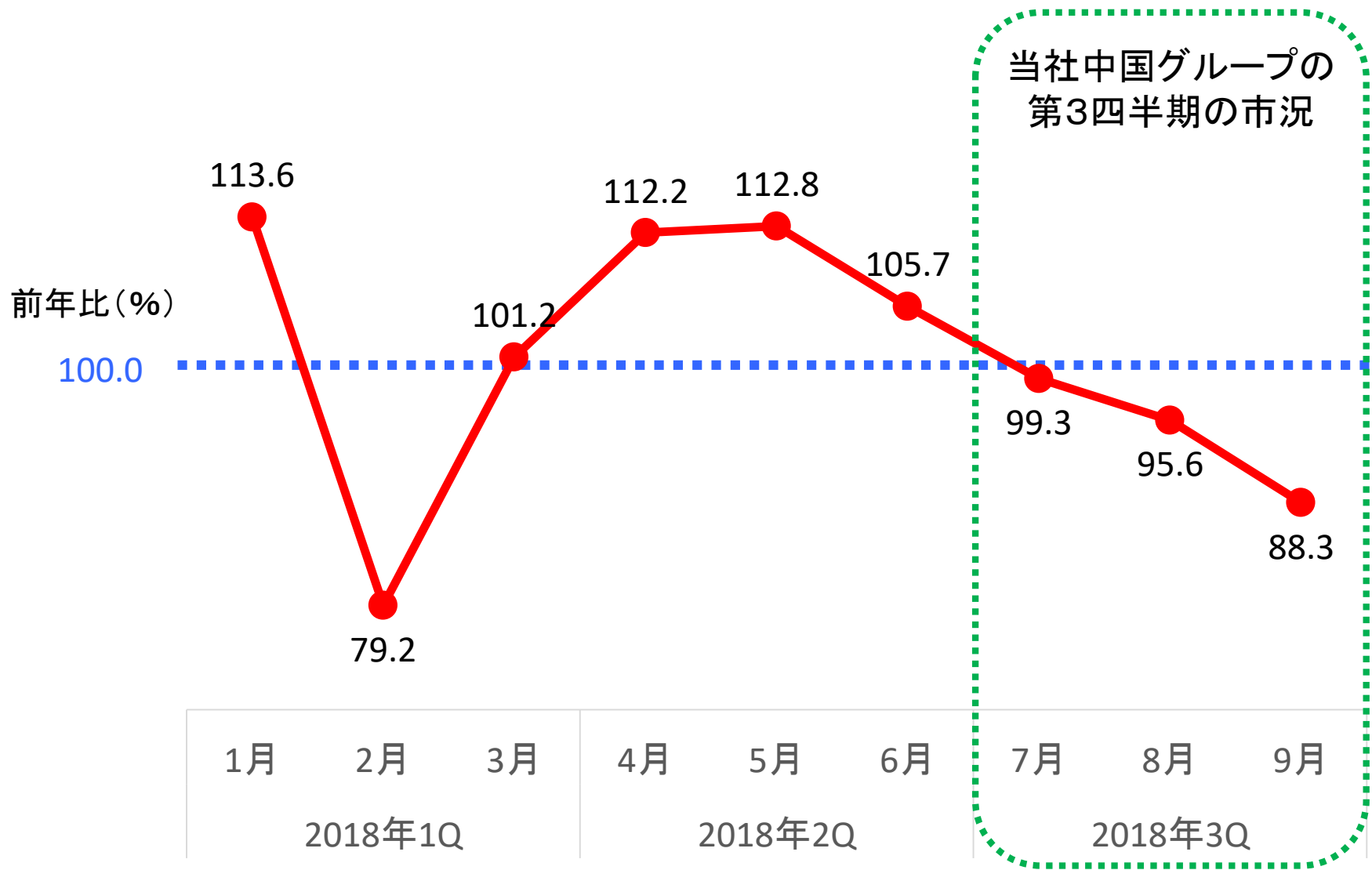
2019年3月期1～6月の前年同期比



(補足) 業種別売上の動向と市況



(補足) 中国市場の自動車生産台数の前年比推移



出所: 当社調べ



「バリュークリエーション」重点経営課題

バリュークリエーション15

グローバル化

新市場の開拓

高収益事業
モデルへの転換

バリュークリエーション2020

販売5極体制の確立

お客様サービスの向上

高収益事業の推進とR&D強化

働き方改革

持続的な成長に向けたベトナム工場の取組み

ベトナム工場を起点としたグループ生産体制の最適化

フェーズ I

投資による助走期間
(2016年度～2018年度)

①

ベトナム工場の操業開始

②

日本生産拠点の原価改善

③

中国生産拠点内での生産移管

投資額 9億円

フェーズ II

グループ新生産体制の本格始動
(2019年度～)

①

ベトナム工場の生産能力強化

②

日本生産拠点内での生産移管

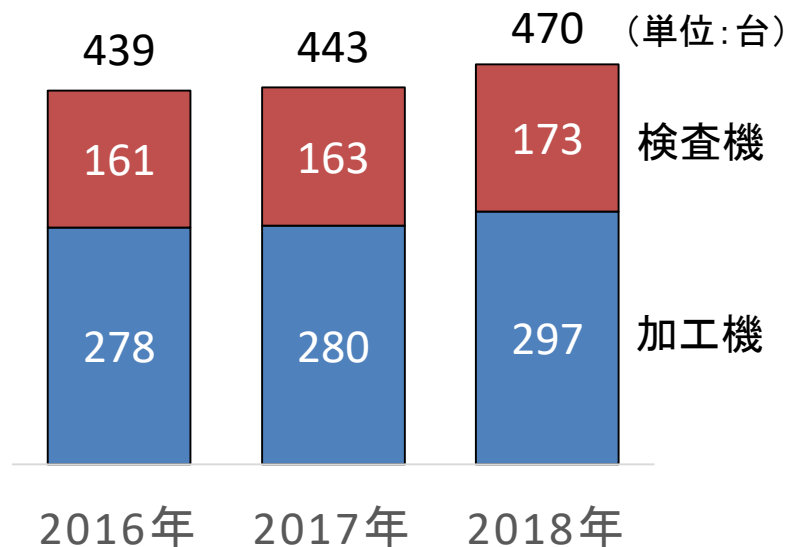
③

日本生産拠点の特注品生産を強化

投資額 11億円



国内工場での高付加価値製品生産の強化



■北上第一工場、第二工場の状況
 ・加工機+検査機ともに増加中
 ⇒スペース確保は必須



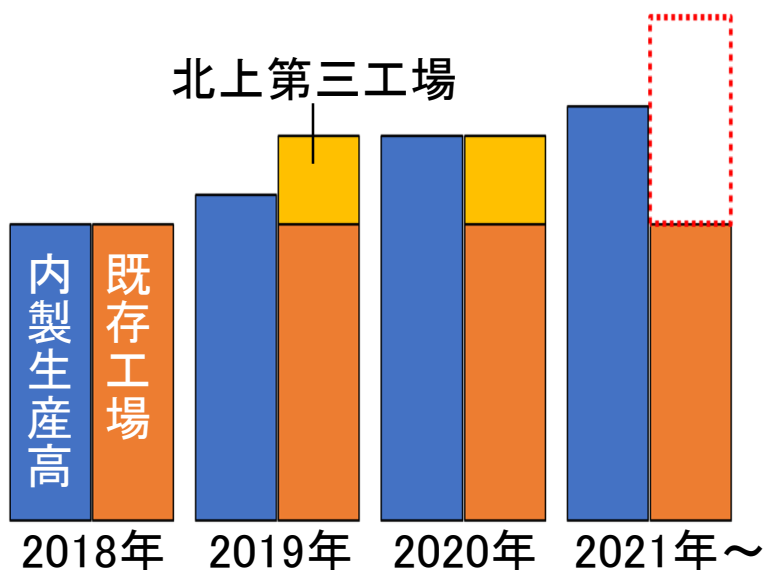
2019年春頃より第三工場を予定
 ⇒新分野の生産効率を改善



北上工場全体の最適化

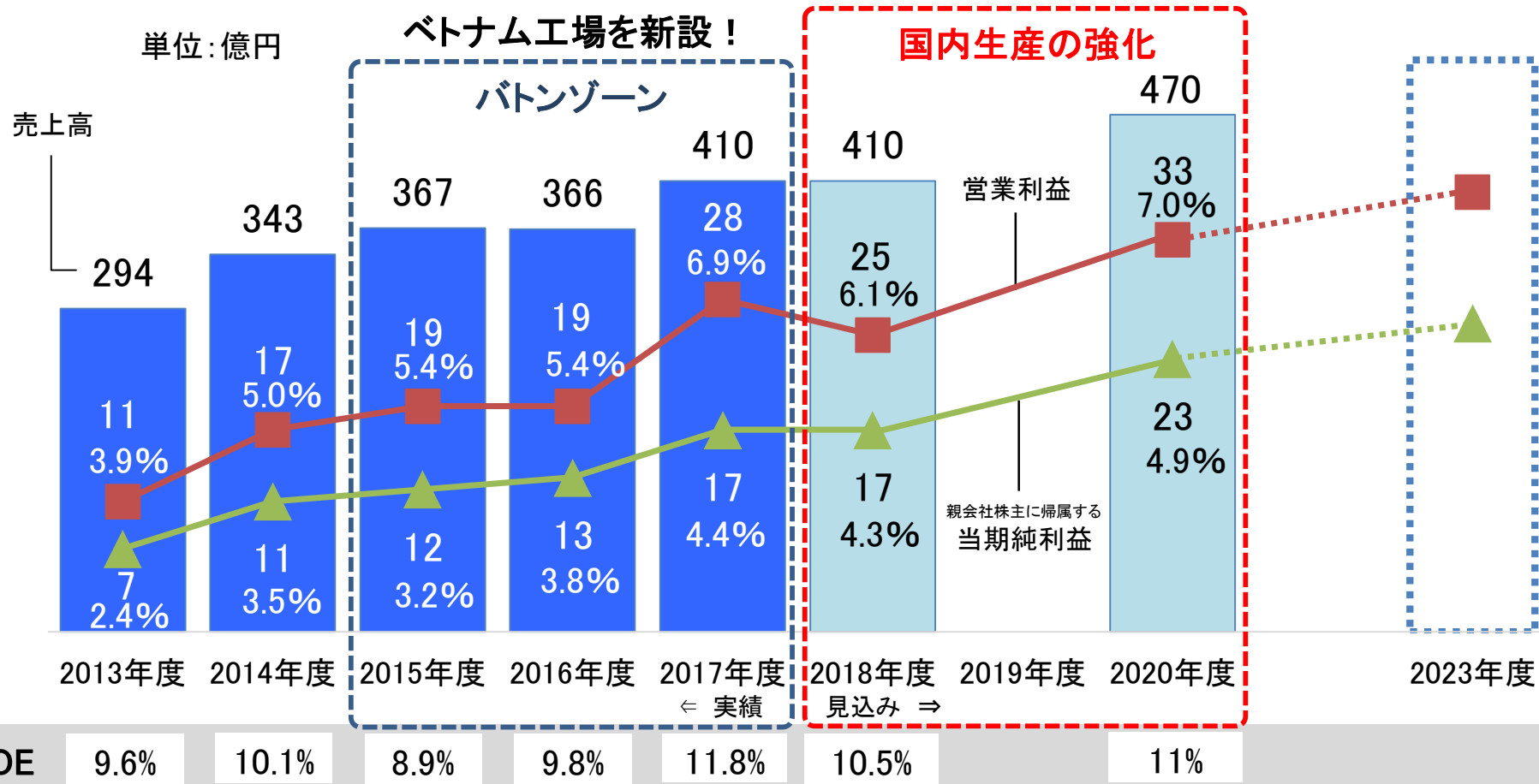
国内生産の強化

高付加価値生産+特注品シフト加速



経営目標 売上・利益の推移

2020年度 売上高 470億円以上 営業利益 33億円以上 当期純利益 23億円以上



バリュークリエーション15

バリュークリエーション20

NEXT
バリュークリエーション



トップメッセージ

①

ベトナム工場のフェーズⅡ移行テスト実施

②

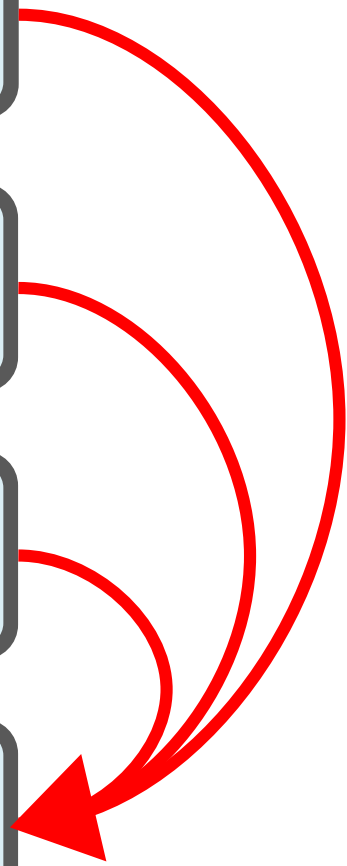
グループ生産体制の最適化準備(国内)

③

高付加価値を生み出す「ものづくり」の推進

④

ステークホルダーの皆様の期待値に応える



参考資料



会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	4,298名(グループ連結、2018年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起工業(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)



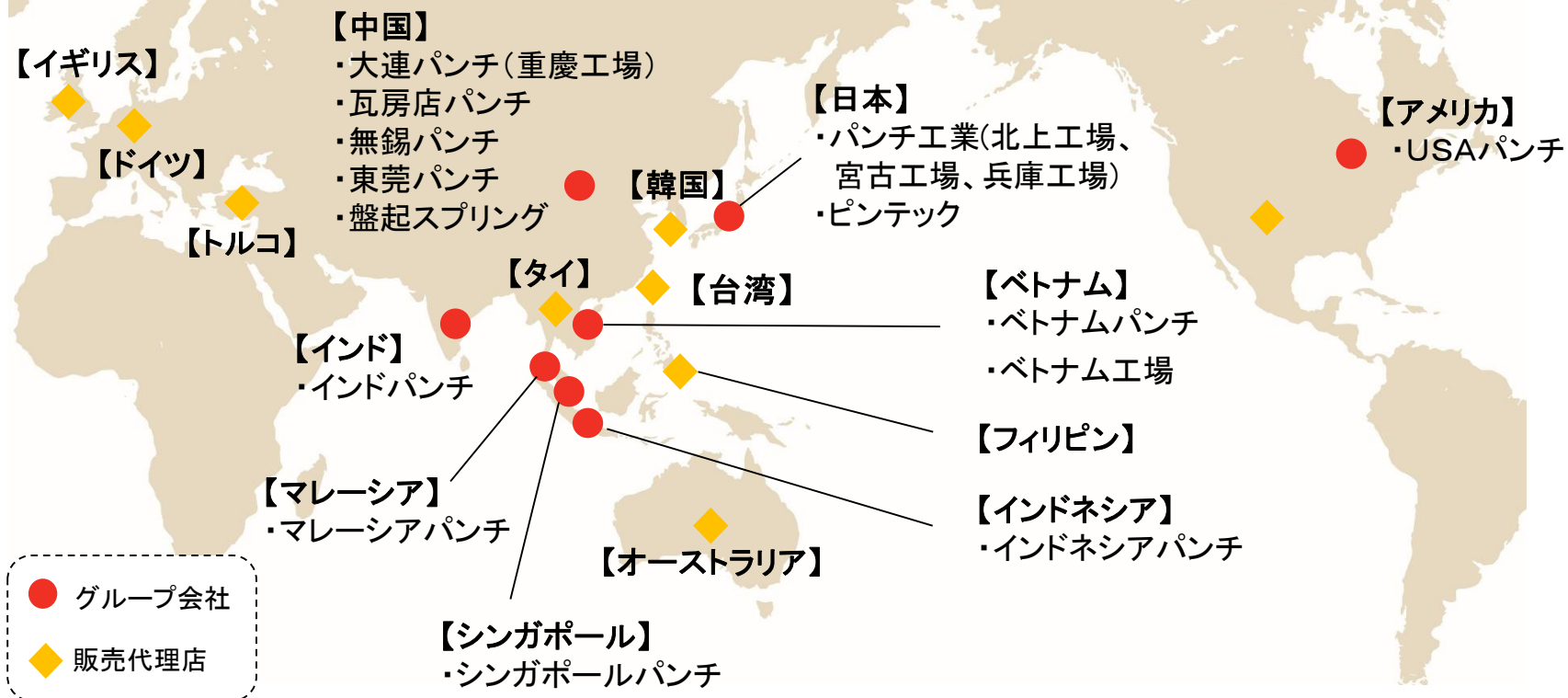
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

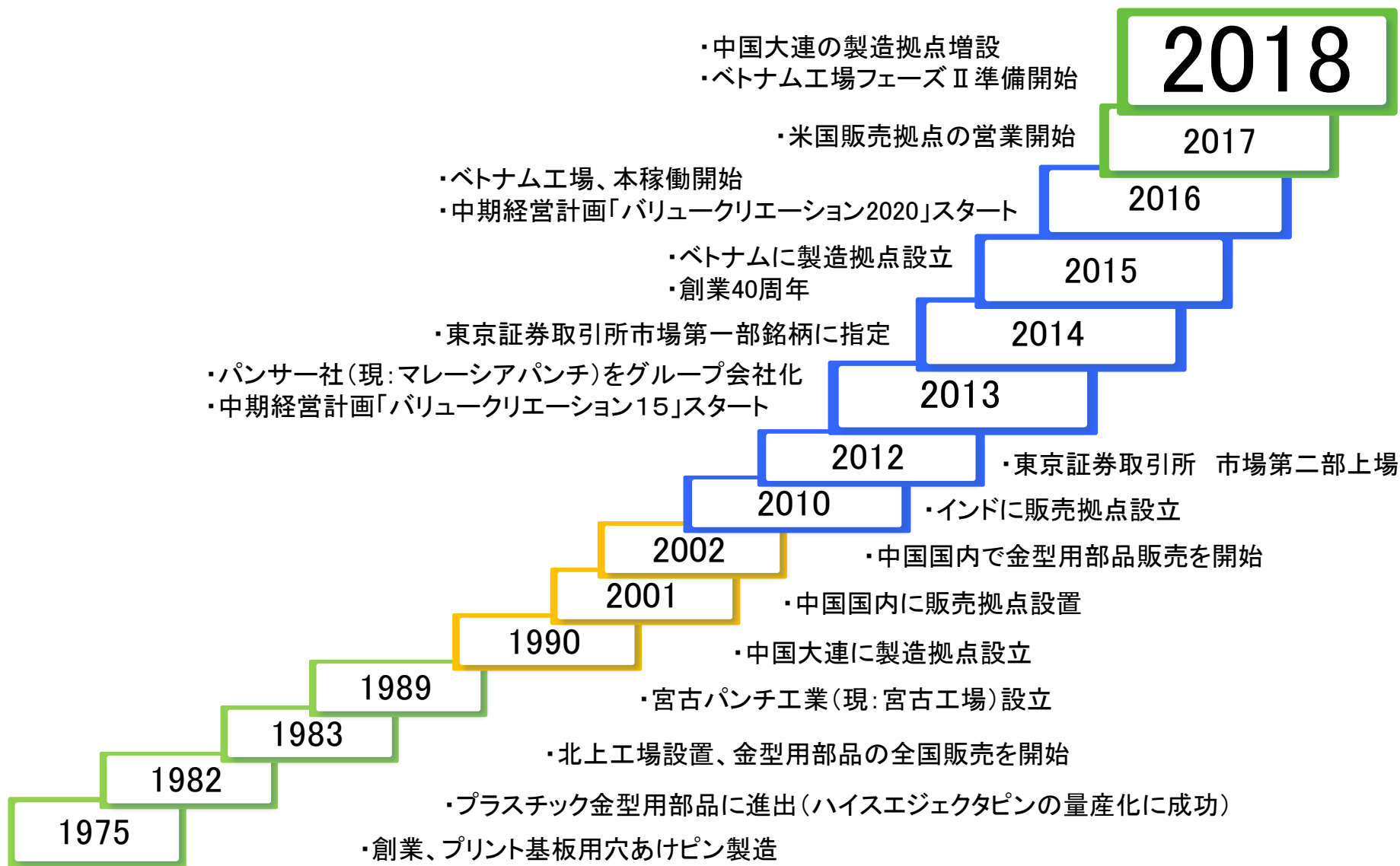
日本	海外
4	8
カ所	カ所

販売拠点数

日本	海外
12	41
カ所	カ所

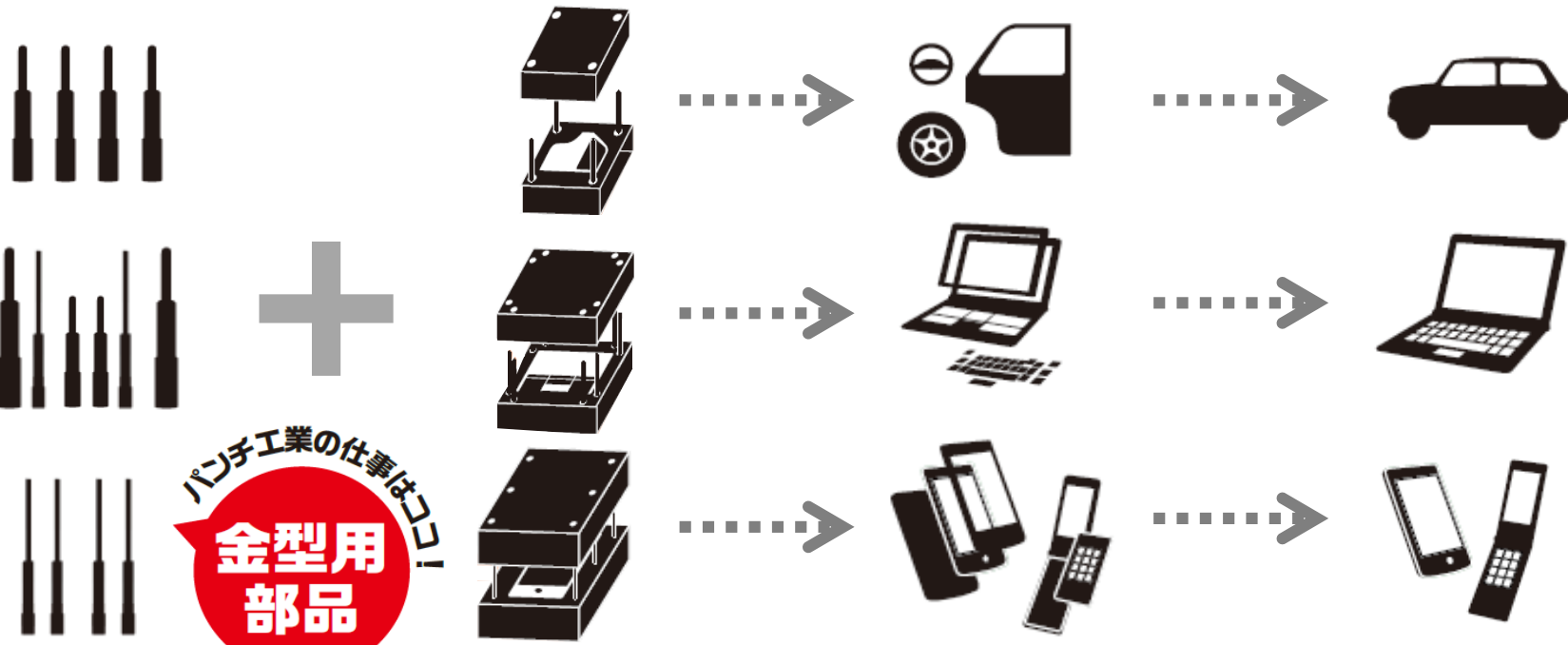


沿革



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



たとえばこんな部品



金型

構成部品を速く、均一に、大量につくるための金属でできた「型」

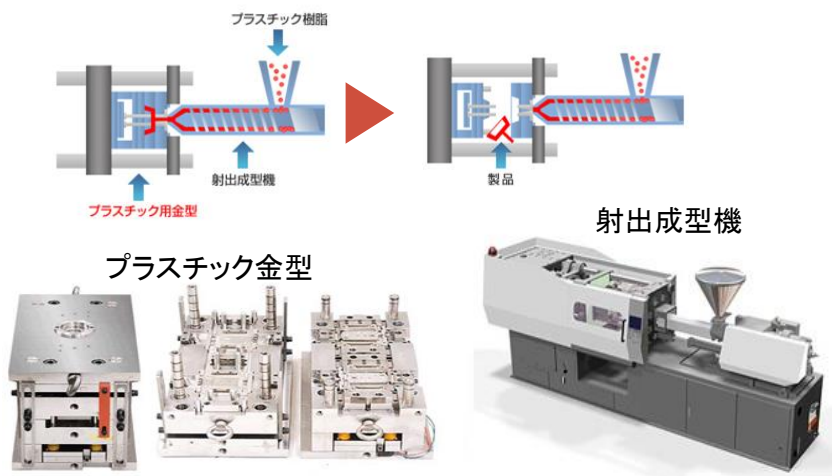
構成部品

製品を構成するために必要となるパーツ

製品

自動車や家電など私たちが身近で使うさまざまな製品

プラスチック金型と金型用部品



エジェクタピン



スプルーブシュ・ロケートリング

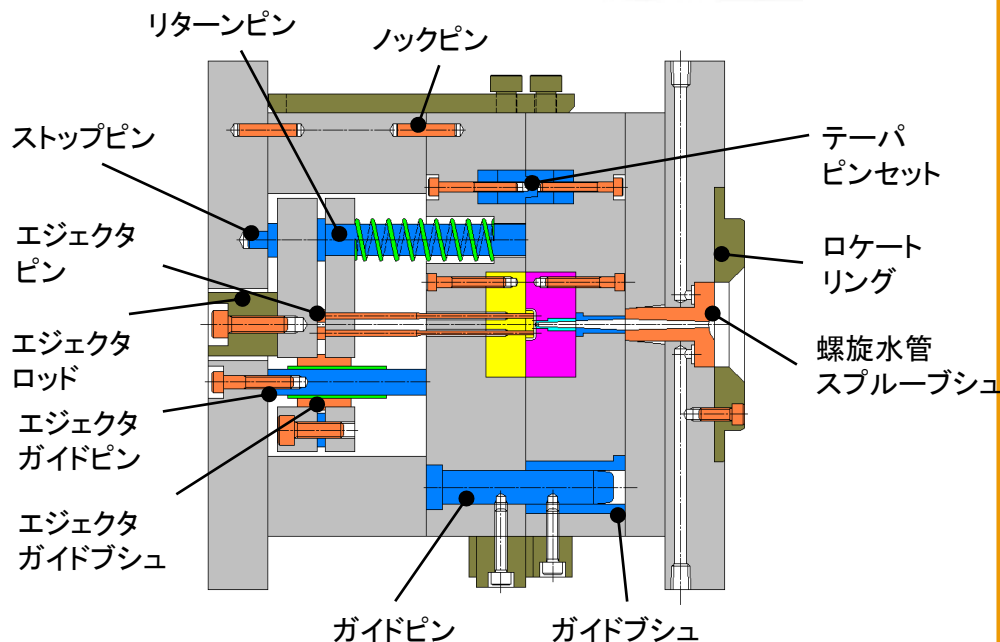
●プラスチック金型用部品について

プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られております。

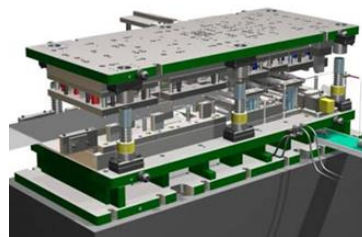
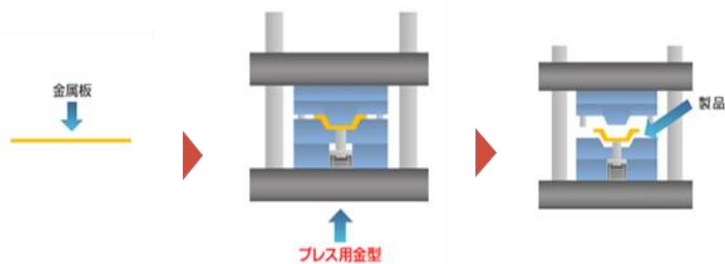
当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エジェクタピン・・・ 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スプルーブシュ・・・ 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品



プレス金型と金型用部品



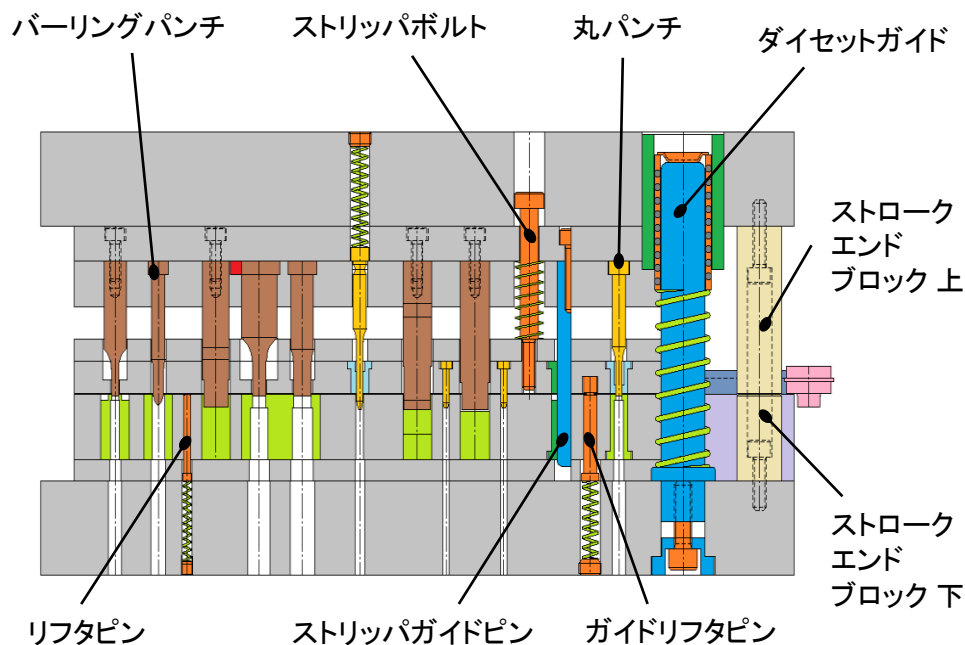
プレス金型



パンチ



ダイセットガイド



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用される金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

- パンチ…………… パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
- ダイセットガイド… 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品



パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供



カタログ品

汎用性の高い標準製品を
豊富にラインナップ

スピーディーな
ソリューション

特注品

カスタムニーズにも
柔軟に対応



一気通貫の生産体制

2,000台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制

きめ細かな対応・提案力

高い技術力

創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発



CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

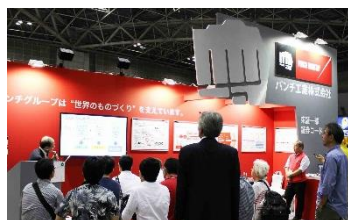
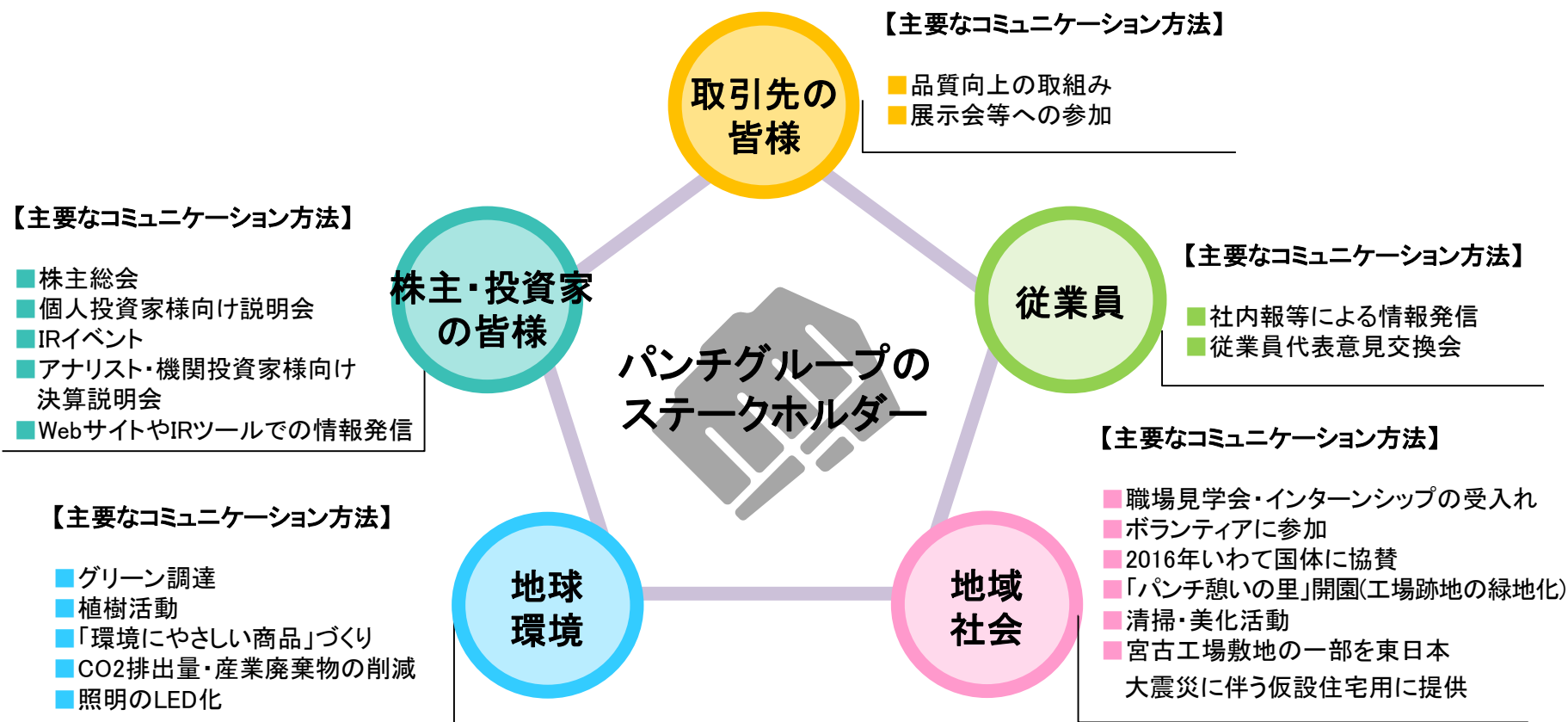
企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

ステークホルダーとのコミュニケーション



IRイベント出展



「パンチ憩いの里」開園
(工場跡地の緑地化)



職場見学会



ボランティア活動
(2016年いわて国体)

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。